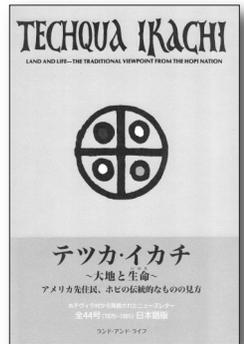


『テツカ・イカチ～大地と生命～』

アメリカ先住民、ホピの伝統的なものの見方

ホテヴィラ村伝統派長老 / 翻訳・永峰秀司 / B5版 343頁 / ランド・アンド・ライフ発行 / 2014年12月22日冬至発行



『テツカ・イカチ』は、アメリカ先住民ホピのホテヴィラ村を中心とする伝統派の長老たちが、1975年から1991年にかけて44号発行した英語による機関誌（ニューズレター）で、「大地と生命」という意味です。ホテヴィラ村は、他の文化・宗教などからの干渉や圧力に不服従を貫き、偉大な精霊との約束を守ったホピによって1907年に創立され、「伝統派、最後の砦」といわれました。

やがて、アメリカ合衆国の政府ともいえるホピ部族政府との対立が高まるなか、さまざまな批判と攻撃をかわしながら、16年間にわたり、長老たちはホピの伝統的なものの見方を世界に発信しました。そして、どのようにして母なる地球の上で平和に暮らし、大地と生命と調和して生きるかを、多彩な記事を交えながら、次世代の私たちへ伝えていきます。

この全44号日本語版の発刊は、翻訳者・永峰秀司氏の協力を得て、2008年初夏、ランド・アンド・ライフのプロジェクトとして呼びかけられ、多くの有志による有形無形の支援とご寄附によって進められ

ました。本書は、翻訳者や編集者の解釈を交えず、原本『Techqua Ikachi』に出来る限り準じ、44号の合本として1冊にまとめています。

プロジェクトの発足から6年が経過した昨年冬至に、伝統的なホピの生き方とものの見方を学び、さらに次の世代の子どもたちに、地球といのちの環を引き継いでいくための、繰り返し読める教科書、あるいは歴史証言の資料として発刊しました。

「教えに値段をつけて売ってはならない」というホピの思想に基づき、値段を付けず、製作実費2,000円/冊を提示させていただき、加えてご寄付をお願いしております。ご理解とご協力いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

■頒布のご案内
2,000円（製作費） + ご寄付
（送付の場合は、送料1冊360円、2冊以上実費ご負担下さい。）

- ① メールで、ご希望の冊数、名前、届け先住所、Tel、E-mailをお知らせください。
- ② 郵便振替口座への直接のお振込みでご注文の際は、振替用紙にご希望の冊数等を

ご記入ください。
郵便振替口座 00910-6-321008 テツカ・イカチ基金

③ 「ろうきん」でのお振込みの際は、ご寄付額、ご希望の冊数、名前、住所、Tel、E-mailを、お振込み後にメールにてお知らせください。

ろうきん（近畿労働金庫・神戸支店642）
普5271091 タツミレイコ

■ランド・アンド・ライフ
〒370-0064 群馬県高崎市芝塚町1980-8 救現堂内 辰巳玲子まで
◎ landandlife1986@gmail.com
HP <http://landandlife.jimdo.com/>

プロジェクト発足当初からの協力者のおひとりで、福島県南相馬市同慶寺住職、田中徳雲さんからお寄せいただいたメッセージをご紹介します。3.11以後は、一日も早い発刊を望んで、プロジェクトを励ましていただきました。4年目の3.11を迎えるにあたって、このメッセージを受け止めていただけたらと思います。

テツカ・イカチ（日本語版）発刊に寄せて

南相馬市小高区 同慶寺 田中徳雲

大地が揺れ、裂け、海が溢れて、たくさんの人々が命を失い、原子力発電所が大爆発を起し間もなく四年…。今なお十七万人もの人々が避難生活を余儀なくされています。それは十七万通りの避難生活者物語があるということ。この生活は、支えてくださる方達のお陰で楽しい時もありますが、ほとんどは厳しく辛いものです。

長期化しているので心身ともに、疲弊し、どのくらい疲れているのかも分からなくなっています。疲れているのか、もしかしたら被曝によるブラブラ病の類いなのかも分かりません。心は見えないので、私たちの心がどれ程傷ついているかも、理解していただくのは難しいと思います。例えてみれば、私たちの心は、傷口が大きく開いたまま、一時は血がだらだらと流れていたと思います。時間の経過と共に血は止まりましたが、傷が治ったわけでも癒えたわけでもありません。なんとか、ぶ厚いかさぶたができた状態ではないでしょうか。傷口がなかなか癒されない大きな理由の一つが、誰もちゃんと責任を取らないし、取れない、そこそこ真心のこもった謝罪もないことにあると思います。

生活は根こそぎ変わり果ててしまいました。それを加害者側はお金で精算すると言っています。お金では計れないもののほうが世の中には多いはずなのに。そしてなにより、いのちを根底から支える、大地と水、海に、放射能が入り込んでしまいました。

私たちは福島で生活を続けても良いのでしょうか？冷静に判断すれば答えはNOです。チェルノブイリや世界中の負の経験から学べば、被曝は子どもにもにまで影響が出ています。しかし、現実には、帰還政策の中でふるさととなるべく近くで生活したいと考える人たちが放っておくことは、今の私にはできませんでした。悩みながら今できることをしています。

そんな環境で今起きていることの実感を伝え、何度でも脚下照顧するために、私はテツカ・イカチ（日本語版）の発行を応援させていただきました。

テツカ・イカチは伝統派長老達の闘いの記録であり、メッセージであり、遺言です。私は、地球と共に生きた先人達の生き方、考え方を知り、今からでもできる限り軌道修正ができれば、大難を小難に変えることができると思っています。偉大な浄化の時を迎えた今、生き方が問われています。生活の質を見直していきましよう。大切なのは大地（テツカ）といのち（イカチ）です。一度目覚めたら戻りにはできません。自らが変化の一部になっていきましよう。社会や自身の限界を超えて、和合と融合、寛容の中に進化する時だと思っています。

イモ虫から蝶へ
野ネズミからイーグルへ